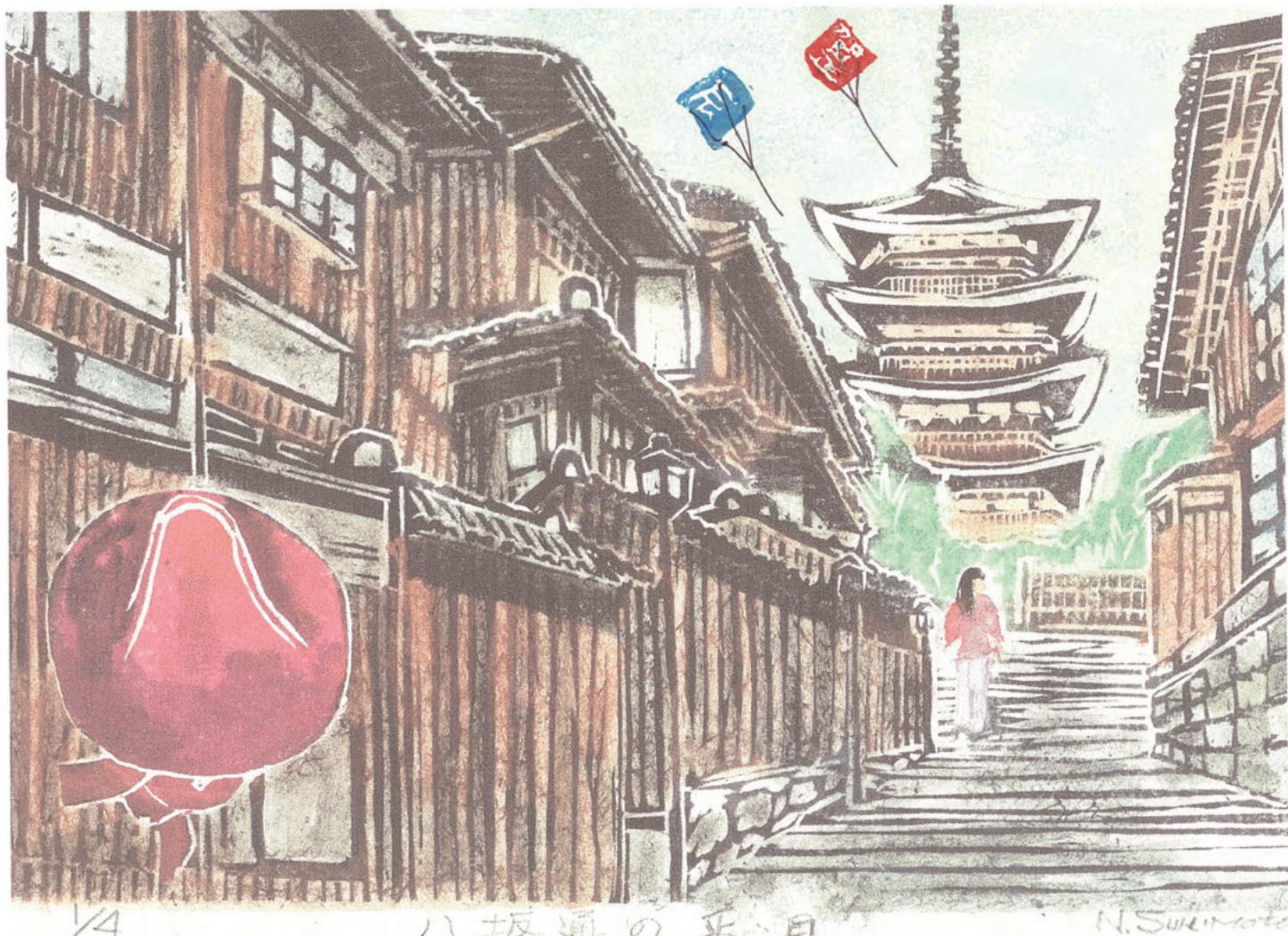


雇用対協 ニュース

2015年 第106号 (平成27年1月)



八坂通の正月

神戸雇用対策協議会・東神戸雇用対策協議会
<http://www.kobe-koyo.gr.jp/>

神戸雇用対策協議会・東神戸雇用対策協議会

目 次

目次 表紙解説	2
ごあいさつ（両会長）	3
ごあいさつ（両所長）	4
神戸地域雇用対策協議会雇用管理セミナー	5
神戸地域新規高校者就職フェア	6
東神戸雇用対策協議会新入社員激励会	7
第4回神戸マラソン	8
企業採用担当者と大学担当者との情報交換会	9・10
新規加入事業所	11
新規加入事業所	12

❖ 表紙木版画解説 ❖

東大路通りから八坂通りを上ると見えてくる風景。聖徳太子が夢のお告げにより五輪の塔を建て、仏舎利を納めて法觀寺と名づけた。現在の五重塔は足利義教による再建されたもので初層内部は見学できる。塔の高さは46m。五重塔の風鐸が聞こえることから名付けられた茶室・聴鐸庵も境内にある。

私は正月に京都が好きで町歩きをしていて、特にこの八坂の塔の見える風景が素晴らしい。五重塔や三重塔の望めるのは普通はお寺の山門をくぐってからが見えてくるが、この八坂の塔は京都の古家を左右に坂を登りながら見える風景が望まれて京都は素晴らしいと思います。又家々に赤いコブシ大の紐で3~4個つり下げて「家内安全」のまじない玉が見られ、又家々の門には青竹をけづって穴を開けて花をいけているのを見られ、正に京都の正月風情がある。

関西版画連盟会員 作 住 本 禮 隆



神戸雇用対策協議会
会長 能崎 晴夫

昨年暮れに衆議院選が開催され自民が大勝し、自公で3分2超を確保する事になって今後4年間は参院勢力に関係なく法案成立が出来る結果となりました。

今後の政治は経済政策のアベノミクスを始めその他の法案が推進できる事により独走する事なく謙虚で慎重に政治に取り組んで頂きたいものです。

神戸は他府県より気候や食料品に恵まれておりますが、経済は他の都市より少し劣っていると思われ、市長も変わった事もあり住民も力を合わせて住みやすく平均所得の高い街にしたいものです。

現在事業を営む上で一番の問題は人材だと思います。最近の新聞記事の若者の定着率は新卒卒業後3年以内の離職は40パーセントと云われるようになっており、その上勤労意欲の低下は事業運営の将来に不安を感じるようになってきました。

原因としては少子化と家庭での負担が出来ていないのではないかとも思われ、政治的に学校教育にも関心を高めて頂きたいものです。

日本経済が今日あるのは勤勉で質の高い国民性であった結果だと思っておりますが、最近よく貿易収支が赤字と記事がよく目に付きますが、その事は人材のレベルの低下と思われ輸出力で成り立っていた日本の将来が案じられるようになってきた今日、目先の経済も大切ですが、将来像も選挙のテーマにして頂きたかったように思いました。

私は世界的なグローバル経済での事業経営は如何なる変化にも対応できるよう体制を整える事も考慮しながら社員の生活を第一と考え、合わせて次の世代を担える若者育成に励んでいるところです。

会員様におかれましても、変化が多く気苦労の多い会社経営ですが、雇用対策協議会にもご協力賜りますようお願い申し上げ、ご多幸を祈念致しまして新年の挨拶と致します。



東神戸雇用対策協議会
会長 藤本 義久

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にとりまして、今年一年が良い年となりますよう心より祈念いたします。

昨年を振り返りますと、消費税増税による景気の落ち込み、日銀によるサプライズ追加緩和、消費税率10%への引き上げ延期・・・と経済環境が目まぐるしく変化しました。また円安の進行は、グローバル企業と内需型企業の格差を一段と広げ、特に中堅・中小企業では円安によるコスト増の負担が重くなっています。このように多くの人たちが共通して「景気回復」を実感できるまでには、まだまだ道のりは長いと感じます。

そのような中、雇用情勢についても回復はしてきていますが、上述の「格差」と同様、企業や業種によって濃淡がはっきりとしてきた状況です。また、来年より新卒採用スケジュールが後ろ倒しになることもあります、特定企業や業種へ応募が集中し、その結果、業種によっては人手不足がより顕著になることも危惧されます。ただ、一番不安に感じているのは学生の方々ではないでしょうか。学生の方々が短い期間に様々な企業を研究し、自分に合った職業を選んでいただくためには、企業側としても従来型の形式的な採用活動にとらわれず、より柔軟な発想での取り組みが求められるを考えます。当雇用対策協議会におきましても、企業と学生の間に出来る限り多くの機会を提供しベストマッチの選択が少しでも増えていくよう活動に取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご健康と、ますますのご活躍を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶



神戸公共職業安定所
所長 稲垣輝彦



灘公共職業安定所
所長 松岡哲史

新年明けましておめでとうございます。

神戸・東神戸雇用対策協議会会員の皆様方におかれましては、新しい年をお健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は、ハローワーク神戸の様々な取組に対しまして、格別の御理解と御協力を賜りましたこと、心から深く感謝申し上げます。

昨年の我が国の経済は、「三本の矢」による一体的な取組の下、穏やかな回復基調で推移しました。

全国の雇用失業情勢を見ますと、平成26年10月の有効求人倍率は1.10倍と、平成4年6月(1.10倍)以来22年ぶりの高水準となり、完全失業率は3.5%で、リーマンショック前の水準まで(直近の底:平成19年7月、3.6%)低下しており、一部に厳しさがみられるものの、着実に改善が進んでいます。

当所におきましても、景気回復による求人の増加と求職者の減少を背景に、平成26年10月の有効求人倍率は0.99倍(平成25年10月は0.88倍)にまで改善しているものの、業種や職種によっては、人手不足感がさらに強まっています。

こうした状況を踏まえまして昨年は、これまで取組んできた基本業務の徹底について、マッチング機能の強化という観点から一層の質的な向上を図り、様々な取組を行ってきたところです。

中でも、「求人充足サービスの一層の強化」を喫緊の課題に掲げ、求人者の求める人材を的確に把握するとともに、求人条件や求人票の記載に係るコンサルティングにより、求職者が応募しやすい求人とし充足に繋げるなど、求人者向けのサービスをより充実させてきました。

さらに、非正規雇用労働者の正社員化を強力に進める「正社員実現加速プロジェクト」により、正社員求人の提出や非正規雇用求人の正社員求人への転換をお願いするなど、積極的に取組んできました。

これらの課題につきましては、今年においても、重点課題として取組む所存ですので、引き続き御理解と御協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

なお、新規大学等卒業予定者の就職・採用活動の時期につきましては、「日本再興戦略」において政府方針として決定され、一般社団法人日本経済団体連合会及び就職問題懇談会においても、この内容を踏まえた指針、申し合わせを決定しており、平成28年3月卒業予定者から新たな就職・採用活動の時期となりますので、円滑な実施につきまして御理解と御協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、新たな一年が会員企業の皆様方にとって幸多き年となりますことを切に願いつつ、益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。

神戸・東神戸雇用対策協議会の会員の皆様方におかれましては、新しい年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、格別の御支援と御厚情を賜り、心から深く感謝申し上げます。

昨年は、4月に17年ぶりに消費税率が引き上げられ、また、円相場が急速に円安へ向かう等、国民生活や企業活動に様々な影響を及ぼした一年であったと思います。

昨年12月に日銀神戸支店が発表した県内金融経済概要は「管内の景気は一部に弱めの動きがみられるものの、基調的には緩やかに回復している」と7月発表時に上方修正した基調判断を5か月連続で据え置いています。

最近の労働市場の動きですが、昨年10月内容での有効求人倍率をみると、全国が1.10倍、兵庫が0.91倍でともに前月を0.01ポイント上回り、当所管内でも1.77倍で34か月連続して前年同月を上回っており改善が進んでいます。

平成27年3月新規学校卒業予定者の就職内定状況は、大学生が内定率68.4%(昨年10月1日現在、全国)で前年同期を4.1ポイント上回り、また、高校生も内定率54.4%(昨年9月末現在、全国)で前年同期を8.8ポイント上回り、改善傾向が窺えます。

上記の状況の下、ハローワークとしましては、会員企業の皆様方はじめ多くの管内企業から戴いております求人をすみやかに充足できるよう全力で取組んで参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、神戸・東神戸雇用対策協議会の会員企業の皆様方の益々の御発展と御健勝を祈念申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

神戸地域雇用対策協議会雇用管理セミナー

神戸地域雇用対策協議会雇用管理セミナーを平成26年10月20日（月）にメリケンパークオリエンタルホテルで開催いたしました。

講演は、4人で白鶴酒造 株式会社 大利 清隆 氏、NPO法人 みちしるべ神戸 小鷹 智 氏、ハローワーク神戸 小島 泰輔 氏、兵庫高齢・障害者雇用支援センター 金杉 文昭 氏の方々でした。参加状況は41企業50名の参加でした。



大利 清隆 氏は10月17日に足の手術をされ、車椅子で来られ講演して頂きました。

白鶴酒造 株式会社 様の障害者雇用の取組を紹介して頂きました。障害者雇用の転機は男性職員の脊椎小脳変形症に侵され、この病は進行すれば手足が動かなくなります。何とか職場に在籍させることの取組をされ、これを契機に障害者の雇用も出来るのではないかと自信を持たれました。この間、職場の環境改善、障害者の方々とのコミュニケーションを深め、身体・知的障害者の方を雇用され2014年6月の障害者雇用率は2.5%と達成されています。



NPO法人みちしるべ 小鷹 智 氏 の講演は 障害者の就職を目指すための働く準備生活リズム、日常生活、社会生活能力等を地道に指導していることを説明されました。

ハローワーク神戸 小島 泰輔 氏 は障害者の職業紹介状況と障害者雇用の進め方について説明がありました。障害者の雇用の理解、どこに配置するか雇用条件を確定して募集活動に入る。採用後の職場定着の取組ことが重要と説明されました。

兵庫高齢・障害者雇用支援センター 金杉 文昭 氏 の説明は障害者雇用納付金制度に基づく種々の助成金の内容を説明されていました。

東神戸雇用対策協議会新入社員激励会

東神戸雇用対策協議会では社員の定着率の向上を目的として、新入社員の激励会を例年開催しております。

平成26年度は7月10日の開催を予定しておりましたが、あいにく大型台風の直撃が予想されるということから開催を延期し、日をあらため9月10日（水）に激励会を開催いたしました。

昨年度に引き続き、より多くの会員企業様が参加しやすいよう、激励会の開始時間を17時からとし、高卒・中卒の新入社員の方だけではなく、大学卒・短大（専門学校）卒の皆さんにも参加いただけることといたしました。

また、内容も講演会などの聴講ではなく、よりリラックスした雰囲気で各企業の新入社員や先輩社員の皆さんのが互いに交流を図れるよう、神戸ベイシェラトンホテルでの食事会といたしました。

結果、本年度は7社の企業様から26名の新入社員、6名の先輩社員、企業担当者の方々にご参加いただきました。

最初は緊張していた様子でしたが、次第にリラックスすることで積極的に他社の方と名刺交換をする新入社員の方や、自社のアピールをする方もいて会話が盛り上がっていきました。

その後は、新入社員全員からそれぞれこれからの仕事に対する決意などを発表いただきました。

皆さん自分の言葉でとてもしっかりと話され、入社から約半年でたくましく成長した姿を見ることができ非常にうれしく感じました。

また各企業の先輩社員からは、新入社員にむけて激励の言葉をいただき、厳しいなかにも愛情をもって新入社員を育てていただいている感じることができました。

今後も新入社員の皆さんのが各企業様のもとで元気に活躍されることを願います。

最後になりましたが、急な日程変更にも関わらずご協力いただきました企業様にあらためましてお礼申し上げます。



神戸地域新規学卒者就職フェア

高卒求人は6年ぶりに高水準
今年の卒業者は1.28倍

就職希望者の生徒1人に平均何件の求人があるかを示す求人倍率は、全国平均で前年同期を0.35ポイント上回り、1.28倍となった。改善は4年連続、人手不足感が強まっていることを背景に、6年ぶりに1倍を超えた。



神戸地域新規学卒者就職フェアは、平成26年11月20日（木）ホテルオークラ神戸で開催されました。

参加の方法が、学校によって違いがあります。スクールバスで参加が5校位あり、先生を先頭に整列して参加、なかには、現地集合型がありました。

女生徒が多く参加していました。面接は先生が誘導して緊張した様子もなく淡々とした態度が印象的でした。参加事業数は52社、参加高校78校、参加生徒数は全体294名（男子104名、女子190名）でした。内定者が多いのか、例年よりも生徒数が減少していました。



厚生労働省においては、平成26年1月より、文部科学省及び経済産業省との連携により、「未内定就活生への集中支援2014」に取り組みました。また、就職が決まらないまま卒業生への集中支援2014に取り組み、1日でも早い就職の実現に向け、全力を尽くしています。

第4回 神戸マラソン

平成26年11月23日（日）第4回神戸マラソンが開催されました。

神戸マラソンは「感謝と友情」をテーマに開催されていますが、特に今年は阪神・淡路大震災から20年目を迎える節目の大会として「20年目のありがとう」を合言葉に開催されました。

大会当日は好天に恵まれ、約2万人のランナーが出場いたしました。

会員企業のなかにもランナーとして出場された方や、ボランティアとして参加された方、または応援に駆け付けた方もいらっしゃるのではないでしょうか。

第2回・3回大会に続いて、会員企業であるカネテツデリカフーズがフルマラソンの33km地点で自社製品の“ちくわ”をランナーに提供いたしました。

ランナーの皆さまからは感動を与えていただくとともに、沿道からは温かい声援が送られ、神戸の街全体が盛り上がった一日となりました。

特に今年は「震災20年目の感謝と友情」をテーマとして開催されました。あの日から20年。新たな思いを胸に新しい一步を踏み出す、心に残る「神戸マラソン」でした。

(写真)

- 当時は「てっちゃん」も沿道で応援
- ランナーに“ちくわ”を提供



企業採用担当者と大学担当者との情報交換会

第1部



土肥 深教授の講演要旨

「なぜ50年後なのか？」

現在の大学3年生に将来の人生設計について尋ねたところ、概ね「あと50年間頑張って生きていきたい」という回答になる。今日の前の学生（若者）を支援することは、これから先の50年、さらにそれからの未来に向けて、日本だけでなく世界を支えていく存在を支援することになる。

「これからの学生（若者）の支援を考える」

2011年8月、米国のディヴィッドソンが発表した「2011年度のアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時には今は存在しない職業に就くだろう」という予測は、このまま日本に当てはまる訳ではないが、今後大きく変化していく仕事の世界を象徴的に表している。

日本のビジネスパーソンの間でも、10年後、20年後、自分の仕事があるかどうか、が話題になっている。技術革新によって機械に置き換えられる仕事は、いずれなくなり、人でなければできないことが求められる。それは、コミュニケーション能力であったり、リーダーシップであったり、創造力であったり、知恵を生み出す能力である。これからは、学生に今は存在しない職業、働き方、会社に備えるための力を身に着けていくだけの下地を整えさせることを意識する必要がある。

- 1 リンダ・グラットンの著書「ワーク・シフト」も話題となった。この本で提唱されている「ワーク・シフト」どれか一つ、アルバイトだけでも頑張っている学生の中にも、優等生ではないが、持ち味のある学生が多いので、そのような学生にも自信をもって就活に臨めるようにしてやりたい。例えばアルバイト先で店の忙しさのピークを想定してアルバイトのシフト作成を店長に進言したり、売れ筋商品の予測をして商品補充を行ったりして、業績を伸ばしたという実績がある。

- 2 孤独な競争から他者との協働によるイノベーションへ、は正に今日の情報交換会がその場である。単独の企業、大学で支援することには限界がある。例えば、次のような企業ユニットによる業・企業研究を提案したい。
- 建設住宅資材販売のA社は社歴も長い優良安定企業だが、B to B企業であるため、学生の関心が低い。しかし、取引先には学生の知名度の高い企業が多い、そこで、A社を中心とした取引先企業ユニットで具体的に商材、完成品、販売場所を示すようなセミナーを実施すれば、学生もビジネスの流れ、企業間の協力体制、ひいては社会ルールが実践的に理解できるのではないだろうか。
- 3 情熱を傾けられる価値へでは、モノではなくコトと言われているように、ストーリー、意義のある仕事、働き方、生き方が求められる。「Decent Work for All」、就職活動を頑張らなかったからブラック企業でも仕方ないというような事ではなく、すべての人が人間らしく働き甲斐を感じられる仕事に就けるような社会、学生（若者）が将来の希望をもって、生きがいを感じられる社会の実現のために、我々も努力していきたい。

第2部



グループ討議

18のグループに別れて討議いたしました。討議の一部を紹介します。

- 1 離職率31.5%これは、学生生活、社会（職業生活）のギャップが大きい家庭の特に母親の影響が大きい、貰えるはOK、与えるはNO等、他人の事の気遣いが無い。
- 2 学校との親密関係を構築する。学校からの紹介がなく、学生の推薦を学校のキャリア担当者の方に積極的にしてほしい。
- 3 学生の個性が無くマニュアル化している。決まったスーツ、決まった履歴書の内容。企業側も面接の仕方も改善が必要。（緊張させないようどう工夫するか等）

第3部

懇親会：能崎会長の挨拶後、各担当者での名刺交換が賑やかに開始されました。

新規加入事業所

会社案内

株式会社クワタは、創業九十年を超す歴史を持った桑田硝子より建築資材の卸・施工販売部門の事業譲渡を受け、LIXILグループの基幹事業会社である株式会社LIXILの子会社として設立されました。

住宅産業も成熟期を迎え、多種多様なニーズにいかに応えられるかが重要となっていました。

その「住宅・ビル建築」の分野で活躍されるお客様をサポートし、お施主様・お取引先様を円滑に結びつける役割を担うと共に、お客様にとって、ベストを日々追求し、営業・顧客支援などのあらゆる情報・機能のご提供に努めてまいり、信頼される「ベストパートナー企業」を目指してまいります。



代表取締役社長
山 内 益 宏

経歴

- 昭和41年3月17日にトヨーサッシ（株）の製造子会社として、鳥取県鳥取市に鳥取トヨーサッシ工業株式会社として設立。
- 平成4年7月1日にトステム鳥取株式会社に社名変更。
- 平成22年8月20日に株式会社クワタに社名変更し、本店所在地を鳥取県鳥取市から兵庫県神戸市に移転。
- 平成22年8月21日より桑田硝子株式会社から事業譲渡を受けて事業を開始。

■ 本社所在地／〒654-0043 兵庫県神戸市須磨区外浜町3-1-25

■ 電話・FAX番号／TEL. 078-732-8282・FAX. 078-732-8281

■ 役員／代表取締役社長 山内益宏

取締役 笹部敏夫

取締役 大坪一彦

取締役 松田淳

監査役 佐藤豊

■ 人員／96名（平成26年12月1日現在）

■ 資本金／3,000万円

■ 決算期／3月31日

■ 事業内容／①硝子・サッシ事業

　　住宅用硝子、サッシ、内装建材、住宅設備機器等の販売・施工ビル用サッシ、硝子の販売施工

②建材事業

　　外壁、床、間仕切り等ALC板の販売施工

③大阪硝子店事業

　　大手ゼネコン様大型建築物件の硝子工事

株式会社クワタ 事業内容一覧

ガラス・サッシ部門 － Total Housing Unit －



ガラスの美しさと機能性、ライフスタイルの多様化に伴いめまぐるしく変化に対応する住器を提案します。

建材事業 － Building Material －



人を風雨、天災から守るために。より快適に、より能率のよい生活を営むために。また文化的環境によって本来のやすらぎと豊かさをもたらすために…

硝子工事事業 － Glass Construction －



商業ビル、大型SC、高層マンション等幅広い建築分野で活躍し、街並みの外観を彩る“ガラス”は夢を創造します。

加入動機：LIXILグループの一員として神戸のみならず世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献するとともに地域産業の振興をはかる一助となればと思い加入了しました。



●発行所●

神戸雇用対策協議会

〒650-0025 神戸市中央区相生町1丁目3番1号
TEL.362-4578 神戸職安気付

東神戸雇用対策協議会

〒658-0033 神戸市東灘区向洋町西5丁目8番
TEL.857-3872 カネツヅデリカフーズ(株)内